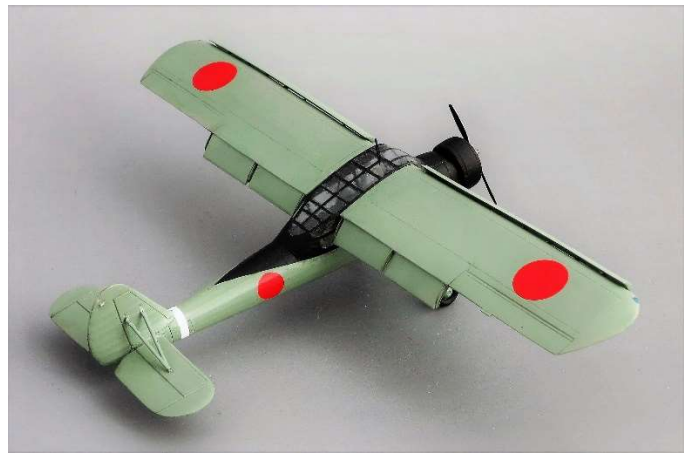


ワケ カタチには理由がある(5)

～三式指揮連絡機 (Ki-76)



(シュトルヒ連絡機と)



本機は、日本国際航空工業が製作した、日本陸軍の連絡機です。1941年に初飛行しています。すでに名声を博していたドイツのFi156シュトルヒ連絡機と同じ機種を望んだ日本陸軍が試作を命じたものですが、シュトルヒのデッドコピーではありません。実は、同時期にドイツからシュトルヒも輸入されましたが、この機体はシュトルヒ到着前に完成しています。サイズも一回り大きい寸法を有しています。とはいえ、主翼前縁の固定スラットや高い降下率で着陸する際のショックアブソーバのストロークを稼ぐための長い主脚柱など、類似するところも多く、実際、シュトルヒ連絡機から多くのアイデアを取り入れています。主翼前縁の固定スラットとファウラーフラップの組み合わせにより、シュトルヒ連絡機に負けない短距離離着陸(STOL)性能を発揮して、成功作となりました。まるで立体幾何学彫刻のような、シュトルヒ連絡機のキャノピーの面構成と異なり、穏やかな曲面で構成される本機のキャノピーからは、どこか提灯のような和風のテイストを感じます。

【模型について】

チェコマスターレジン(CMR)製 1/72 のレジンキットですが、一部、アヴィエーション USK の簡易インジェクションキットのエッチングパーツを使用しています。また、ダウン状態のファウラーフラップは、主翼パーツの一部を切り欠いて自作しています。主翼パーツの重量を、塩ビ製のキャノピーパーツに片持ち梁式にかけるわけにはいかず、両側の主翼パーツを2本の真鍮線で連結したうえで、キャノピーパーツにのせるように固定しています。(中川裕幸 2021年2月)